

### 3. 乳癌における HER-2/neu 遺伝子の発現と臨床病理学的因子との関連

腫瘍外科

根本有紀子, 大川哲弥, 添田良知, 伊藤 勇, 宮地和人, 難波美津雄, 砂川正勝

目的: 原発性乳癌における予後予測、治療効果予測において、HER-2/neu 遺伝子の発現と臨床病理学的因子との関連について検討した。

対象・方法: 1987年から1998年までに当院で手術を施行された原発性乳癌103症例を対象とした。検討した因子は、腫瘍径、リンパ節転移数、閉経前後、病理組織型、HER-2/neu 遺伝子発現、p53 遺伝子発現、bcl-2 遺伝子発現、5年生存率などである。HER-2/neu 遺伝子発現、p53 遺伝子発現、bcl-2 遺伝子発現は免疫組織学的に検討し、いずれも統計的解析を行った。

結果: HER-2/neu 遺伝子発現は閉経後、大きな腫瘍径、リンパ節転移数の多いもの、エストロゲンレセプター陰性、プロゲステロンレセプター陰性と関連して発現率が高かった。多変量解析の結果、HER-2/neu 遺伝子発現はリンパ節転移とともに独立した予後不良因子であった。

### 4. 乳癌の17番染色体 17p13.3の欠失と予後推定—パラフィン切片を用いたマイクロウェーブFISH法による検討

越谷病院病理部

菅野渉平, 木場洋行, 緋荘和子, 山口岳彦, 上田善彦, 森 吉臣

目的: リンパ節への転移の有無が乳癌の予後因子として重要である。17番染色体の異常や17p13.3の欠失などがリンパ節転移の予後因子となるのかについて検索した。

対象、方法: 原発性乳癌28例について、ホルマリン固定パラフィン切片を用いてマイクロウェーブ照射を併用したFISH法で検討した。

結果: 17番染色体で polysomy、monosomy、disomy間に有意差はなかった。17p13.3の欠失例にリンパ節転移が多く、欠失のない症例と有意差をみとめた。また、17番染色体の aneusomy と17p13.3の欠失との関係で、polysomyで17p13.3が欠失する例にリンパ節転移がより顕著であった。これら遺伝子検索は乳癌の予後推定に有効である。